様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６４１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ０１８５１

研究課題名（和文）障害者の就労問題とその解決の解明－社会的企業に注目して－

研究課題名（英文）Examining the employment issues of persons with disabilities and exploring the solutions: Focusing on social enterprises

研究代表者
平澤　哲（Hirasawa, Tetsu）

中央大学・商学部・教授

研究者番号：７０６１０９６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、障害者の就労条件の改善に向けてビジネスを展開している社会的企業に注目し、ソーシャル・イノベーションの形成やその影響についてフィールド調査から明らかにすることを目的としました。これにより、障害者の就労問題を学術的に解明するとともに問題解決に役立つ実践的な示唆を導き出すことを目指しました。調査の結果、リスクを冒し、勇気をもって真理を語るという「パレーシア」の特性を社会的企業家に見出すとともに、ビジネスと福祉という両立が難しい２つの役割を同時に果たすことを可能にするハイブリッド組織の特徴を明らかにしました。これらの研究成果については、国内学会誌に出版し、また国内外の学会にて報告しました。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、公共政策や社会福祉サービスなどの従来のアプローチと異なり、社会的企業という新しいアプローチから障害者就労の課題解決についての独自な知見を明らかにしています。また、多くの先行研究において用いられてきたサーベイ調査と異なり、長期にわたるフィールド調査を実施し、当事者の立場から現在の問題とその背景を理解し、さらに、課題解決の方法を探求している点に本研究の独自性・創造性があります。

研究成果の概要（英文）：This study focused on social enterprises that are developing businesses to improve the working conditions of people with disabilities, and aimed to uncover the formation of social innovation and its impact through field research. By conducting this research, I aimed to gain an academic understanding of the problem of employment for people with disabilities and to derive practical suggestions for solving the problem. The research revealed the key characteristics of social entrepreneurs who are "parrhesia" - taking risks and speaking the truth with courage - as well as the characteristics of hybrid organizations that enable them to simultaneously fulfill two roles, business and welfare, which are difficult to be combined. These findings were published in a domestic academic journal and reported at major conferences in both Japan and abroad.

研究分野：経営学

キーワード：社会的企業　障害者　就労問題　定性的研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

障害者が直面する重要な課題の１つに就労問題があります。WHO の推計では、世界では、６億 100 万人が障害者であり、そのうちの 3 億 8600 万人が労働年齢期間（15～64 歳）にいます。障害者の失業率は健常者に比べて高い状態にあります（ILO 2001）。日本では、「一般就労」として企業で働く機会を持つ一部の障害者を除き、多くの障害者は就労支援事業所等で働く「福祉的就労」に留まり、平均の工賃は、月額１万４千円と低い水準に留まっています（障害者白書・平成 27 年版）。そのうえ、多くの障害者は訓練生や利用者として位置づけられるため、労災保険や健康保険等の適用からも除外されています。障害者の就労問題の解決に向けて様々な制度（雇用促進制度・優先調達推進法・共同受注）が施行されていますが、現在もなお、多くの障害者は、雇用機会や就労条件で不利な状態に置かれています。

近年、こうした慢性的な社会問題をビジネスのスキームを使って解決しようとする社会的企業が現れてきました。こうした社会的企業は、障害者の就労問題の解決に向けて大きなポテンシャルを有しているにもかかわらず、既存研究は、差別禁止や雇用率等の法理論的な考察、雇用促進制度の効果に関する経済分析、職場適応の具体的な支援策などを中心としており、この新しいアプローチに関する学術的な調査は不足しています。

２．研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究は、次の２点を明らかにすることを目指しました。第一には、障害者の就労問題が十分に解決されないという現状の中で、社会的企業家は、いかにして、ソーシャル・イノベーションを創造するとともに、多様な利害関係者を巻き込んで、それを発展させていくのかを調査しました。その際、社会的企業家の活動に焦点を置きました。第二には、障害者就労の現場において、組織は、いかにしてビジネスと福祉という２つの役割を担い、多様な障害者が一緒に働けるような労働環境を創造しているのかを調査しました。ここでは、両立困難な２つの役割を担うことができるようなハイブリッドな組織に焦点を当てました。以上の調査を通じて、障害者就労の問題解決における社会的企業という新しいアプローチを学術的に解明するとともに、問題解決に役立つ実践的な示唆を導く出すことを研究の目的としました。

３．研究の方法

本研究では、文献調査により障害者就労の問題と社会的企業に関する理解を整理した後、フィールド調査によりデータを収集し、定性的な分析方法に用いて新たな知見の発展を目指しました。フィールド調査では、障害者就労施設に対するコンサルティング活動を通じて障害者の工賃と働き甲斐の向上を目指している社会的企業「Ｆ」、パンの製造・販売を通じて障害者の就労条件の改善を推進しているＮＰＯ法人「Ｌ」、障害者の雇用機会を農業分野に創出するという農福連携を展開している「Ｙ協議会」にて参与観察を行い、データを収集し、その後、グランデッド・セオリー（Glaser & Strauss，1967）に基づいてデータを帰納的に分析しました。

４．研究成果

（１）　社会的企業家の活動の理論化

本研究では、ヤマト福祉財団を創設し、障害者の自立と社会参画の支援を目指した小倉昌男氏に焦点を当て、社会的企業家の特性と行為を明らかにしました。小倉氏は、障害者の工賃が非常に低いという実態を問題視し、障害者就労施設を対象に工賃向上のための経営セミナーを展開しました。また、自らもスワンベーカリーという新しい事業を創造し、障害者の就労条件の改善に貢献しました。その後、彼の意思を受け継ぐ企業家たちが現れ、障害者の就労環境を改善しようとする機運は全国に広がりました。この研究では、小倉氏の姿勢や活動について、ミシェル・フーコーの「パレーシア」（Foucault，2001）、即ち、「勇気を持った人が危険を顧みずに真理を言うこと」と、パレーシアを行使する個人である「パレーシアステース」という視点から捉えることを通じて、社会的企業家の活動の理論化を試みました。

①　企業家的真理ゲーム

常識に反した事業を創造しようとする場合、企業家は、既存の考え方に囚われている利害関係者に対峙して、対話を行うことになります。こうした対話は、何が本当であるのかという真理をめぐるゲームの様相を呈します。従来の実践では、障害者は、地域社会から隔離された施設で日中を過ごし、施設職員は障害者のケアに専心していました。その結果、収益をあげられるようなビジネスの実行や、障害者が十分な報酬を得て自立して生活できる機会が損なわれてきました。

社会的企業家は、パレーシアステースとして、従来の実践を信じる人々に対峙していきます。小倉氏は、障害者が十分な報酬を得て、社会参画できるようにするという理想（小倉，2003）を掲げ、既存の実践に囚われている施設職員を真っ向から批判しました。真理をめぐる挑戦的なゲームでは、社会的企業家は、他者からの批判を恐れず、勇気をもって自ら信じる真理を語ることにより、人々に影響を及ぼしていきます。

②　代替的な事業の創造

社会的企業家は、真理を語るという発話行為に留まらず、新たな事業を構築するために様々な要素を結合していきます。例えば、小倉氏は、タカキベーカリーの冷凍パン技術という先端技術と、障害者と健常者を含む作業システムを組み合わせるにより、持続可能な事業モデルを創出しました。その際、自らの正当性や権力によって他者を追従させようとするのではなく、従来の問題を人々が反省し、新しい生き方を選択できるように導きました。福祉施設の関係者たちは、小倉氏の率直な語りに耳を傾け、自らが信じてきた常識の限界に気づき、勇気を出して新しい事業化に挑戦しました。こうして、小倉氏の意思は受け継がれ、障害者の就労環境の改善は、政策的にも進められるような重要な課題として認識されるようになりました。

③ 政治的・倫理的な実践の二重性

パレーシアステースとしての社会的企業家は、経済的な成功に焦点を置く従来の企業家と異なり、政治的・倫理的実践に従事しています。彼らは、自明視されている既存の制度に挑戦するため、権力体制に対峙するという意味で政治的な役割を担います。また、多くの人々が主体性を取り戻し、自分自身で物事の倫理を考えるように導くという意味で道徳的な実践にも従事しています。こうした政治と倫理の二重性が社会的企業家の活動を特徴づけているのです。

（２）ビジネスと福祉の両方を担うハイブリッド組織の解明

本研究では、ベーカリー・ビジネスを営む就労支援施設において、研究者が障害者と一緒に働きながら実態を調査するというエスノグラフィーを通じて、障害者の就労支援とベーカリー・ビジネスというハイブリッドな役割を担いながら、いかにして組織が多様な障害者を包摂できるのかを探求しました。そして、以下の知見を新たに見出しました。

① 福祉的なケアとビジネスの二律背反

現状では、多くの福祉施設がビジネスを効率的に行えず、障害者に十分な工賃を支給できていません。このため、障害者の工賃は低い水準に留まっています。この問題の背景には、就労支援とビジネスの二律背反が見出されます。即ち、ビジネスの効率を追求するほど、高い工賃を支給できる反面、重い障害を伴う障害者を包摂することが難しくなってしまいます。他方、多様な障害者を包摂するほど、今度は、効率的なビジネスの追求が困難になってしまいます。こうした二律背反の存在が就労条件の改善を制約しているという現実を明らかにすることができました。

② 二律背反の克服に向けて

上記の二律背反を克服するため、ＮＰＯ法人「Ｌ」は、事業戦略、職務設計、組織文化という３つの側面でユニークな取り組みを行っています。第一には、事業戦略では、積極的に専門職を活用しています。多くの福祉施設は、ビジネス経験の乏しい社会福祉士が事業を担うため、効率的なビジネスの実現が困難な状態にありました。これに対して、Ｌ法人では、パン職人や食品業界で経験を積んだ専門職スタッフを採用し、専門のベーカリーショップに匹敵する生産量と品質を実現しています。こうして専門職を配置することによって顧客のニーズに応える一方で、新たな仕事を生み出し、障害者の参加機会を作り出しています。

第二に、Ｌ法人は、多様な障害を伴う人々を包摂できるように職務設計を工夫しています。例えば、人気商品のマフィンについては、パン職人ではなく、パートスタッフと障害者を中心にした作業部門で２０００個／日を生産しています。この工程では、多様な障害者を包摂できるように職務が設計されています。例えば、マフィンの味付けのような手先の器用さが求められる仕事には、スキルの高い障害者が割り当てられています。他方、沢山の容器に生地を継続的に入れていくような反復作業には、忍耐力に秀でた障害者が割り当てられています。ここでスタッフは、生産活動に参加しながらも、ひとり一人の障害者に対して業務指導とケアを行っています。

第三には、Ｌ法人は、障害者の支援に価値を置く組織文化を構築しています。例えば、社会福祉士以外のスタッフでも、障害者支援に働き甲斐を見出し、支援力を高めるための学習を行っています。スタッフたちは、自らの支援によって障害者が成長していく姿に喜びを感じています。また、スタッフ自身も支援者としての自己の成長に強い関心を示しています。このように福祉の専門性を伴わないスタッフが障害者への就労支援に価値を見出すような組織文化の形成は、Ｌ法人がベーカリーと福祉という２つの役割を担うことに大きく貢献しています。以上のようなハイブリッドな組織の構築により、Ｌ法人は、福祉とビジネスの二律背反を克服しているのです。

＜引用文献＞

Foucault, M. (2001) *Fearless speech, ed. Joseph Person, Semiotext*（e）, Foreign Agents Series（中山元訳『真理とディスクール パレーシア講義』筑摩書房,2002 年）.

Glaser, B. G. and Strauss, A. L.（1967）*The discovery of grounded theory: Strategies for qualitative research*, New York：Aldine de Gruyter（後藤隆・大手春江・水野節夫訳『データ対話理論の発見一調査からいかに理論をうみだすか一』新曜杜, 1996 年）.

小倉昌男（2003）『福祉を変える経営：障害者の月給１万円からの脱出』日経ＢＰ社。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 伊藤 博之、筈井 俊輔、平澤 哲、山田 仁一郎、横山 恵子	４．巻 8
２．論文標題 真理ゲームとアントレプレナーシップ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 組織学会大会論文集	６．最初と最後の頁 14～19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11207/taaos.8.2_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊藤博之・筈井俊輔・平澤哲・山田仁一郎・横山恵子	４．巻 37
２．論文標題 パレーシアステースとしての企業家：小倉昌男にみる企業家的真理ゲーム	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ベンチャーレビュー	６．最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 横山恵子・伊藤博之・平澤哲・山田仁一郎・筈井俊輔
２．発表標題 パレーシア的企業家の理論的射程―ソーシャル・アントレプレナーシップ論による試論―
３．学会等名 日本ベンチャー学会第２３回全国大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 T., Hirasawa
２．発表標題 Wearing two hats: The employment issue for persons with disabilities and a hybrid organization
３．学会等名 36th Colloquium, European Group for Organizational Studies（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊藤博之・筈井俊輔・平澤哲・山田仁一郎・横山恵子
２．発表標題 真理ゲームとアントレプレナーシップ：パレーシアステースとしての企業家
３．学会等名 組織学会2020年度年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関